

凡ソ自白ノ證タル可キニハ他ノ一方ノ者之ヲ承認スルヲ要スト確論
 スルハ或ハ之ヲ信スルニ苦ム者アル可シ然レモ自白ノ取消ス可ラサ
 ルハ其自白ヲ以テ功用作爲サントスルノ意ヲ表スルニ至リシ后ノコ
 ニシテ未ダ此所ニ至ラサル間ハ其自白ヲ爲シタル者自カラ之ヲ取消
 スコトヲ得又其取消ニ因テ自白無ニ屬シ其効ヲ生スルコト無キモノト看
 做ス可シトハ法律學士ノ間ニ於テ行ハル、一般ノ説トス又實地家ノ
 言ウ所ニ據レハ此説タル即チ人タル者言ヲ發シ他人之ヲ承認シテ其
 既得ノ權ヲ生スルニ至ルマテハ常ニ之ヲ取消スコトヲ得可シ云々ノ至
 簡至實ノ原則ニ基クモノトス然レモ抑此原則タル契約義務上ノ主
 義ニシテ之ヲ以自白ノ如キ單一ノ證據ニ於テ適施セントスルハ彼
 此相混同スルモノタルヤ明カナリ○蓋シ人アリ其義務ヲ生ス可キ約
 ヲ變改セント欲スルハ他ノ一方ノ承諾ヲ要スルヤ疑ヒナシ然リ

ト雖モ凡ソ自白ノコトニ在テハ固ヨリ權利ノ得失ニ關スルモノニ非ス
 シテ唯裁判官心證ノ如何ニ在ルノミ然レハ即チ此心證ヲ得セシムル
 ハ他ノ承諾ノ有無ニ非スシテ即チ其對敵ノ自白ニ在ルナリ
 然レモ人又將ニ云可シ凡ソ甲者ニ事實證據アルハ乙者其自白ヲ取
 消スモ其證據ニ於テ害ナシ若シ又甲者ニ其證無キ時ハ乙者ヨリ必ス
 其證ヲ供フ可キ責アルニモ非ス蓋シ被告人ヨリ自己ニ害アル證據ヲ
 舉グルヲ要スト云者ハ未ダ曾テ之レ無キニ非スヤ因之觀レ之ハ強テ其
 自白ヲ爲サシムルノ謂レ無キハ明カナリ然レモ若シ一度ヒ自白シテ
 后チ之ヲ取消シ得ヘキヤ如何ト云ニ至テハ全ク其論旨チ異ニスルモ
 ノナリ蓋シ負債アル以上ハ之ヲ辨償セサル可カラサルハ必然ノ理ニ
 シテ誰カ又之ヲ非トスル者アラシヤ然ラハ即チ被告ヨリ爲ス所ノ自
 白ハ結局其負債アルコトヲ證スルニアラヌヤ然リ而シテ其自白ハ他ノ

一方ノ承認スルニ至ル迄ハ之ヲ取消ス可キ得ルト云フハ取モ直サス
自白ノ信據力ノ生スルハ之ヲ爲ス者ノ身ニ在スシテ他ノ一方即チ其
自白アルニ就キ其利ヲ得ル者ノ身ニアリト云ニ異ナラス豈ニ妄斷ト
云サルヲ得ンヤ

凡ソ證據ナルモノハ雙方ノ約ニ於ケル如ク承諾ヲ要ス可キ者ノニ非
ス因之人證又ハ推測法ヲ以テ裁判官ノ良心ニ感覺ヲ及ホスカ爲ニス
ラ他ノ一方ノ者ノ承諾有ルヲ要スト云フ者ハ未タ嘗テ之レ非ルナリ
而ルヲ却テ此妄説ヲ以テ尙ホ自白ニ適施セントシ尙シ之ヲシテ行ハ
シムレトアラシメハ一層ノ驚歎ヲ加フルモノト云可シ
此論タル眞ニ確論ト云可キナリ今夫レ甲乙ノ二人詞訟ヲ爲スニ當リ
自白セシ時ハ余カ見テ以テスレハ甲乙ノ間ハ固ヨリ其詞訟ニ關セサ
ル者ト雖モ亦尙ホ其自白ヲ申立抵持スルヲ得サル可カラズ而シテ

他又裁判既決ノ力ハ兩造ノ爲ニシテ他人ノ爲メニ非スノ原則ト抵觸
スルコト莫ル可シ蓋シ其自白ニ就キ云クスルハ既判ノ權力ニ係ルモノニ
非スシテ衆人ノ争フ可ラサル證據ノ事ニ關スルモノナレハナリ

○第三款 如何ナル理由アル時自白ヲ取消シ得ヘキヲ論

ス

凡ソ事實ニ錯誤アルトハ自白ヲ取消ス可キ得ルナリ○譬ヘハ其姓名ノ
相似タルニ謬リ某ノ職工ニ於テ若干日數ノ工錢ヲ償フ可キモノアリ
ト自白ス而シテ其實其業ヲ爲シタル者ハ自白セシ所ノ者ニ非スシテ
他ノ職工ニ係ル時其他都テ斯クノ如キ錯誤アル場合ニ在テハ其錯誤
ヲ證明シ已ニ爲ス所ノ自白ヲ取消ス可キ得ルナリ
然レモ若シ其錯誤ノ法律ニ係ル時ハ其自白ハ取消ス可キ得ス何トナ
レハ斯ノ如キハ即チ猶兒ノ所爲ナリト云可シ○例ヘハ一人ノ負債主

アリ其證書法式ニ欠ル所アリ無効ノモノタルヲ知ラズシテ己ニ其
 負債アルヲ自白シ爾後其處斷ヲ逃ル、ノ術アルヲ明知シ負債ノ
 自白ヲ取消ント欲スルカ如キ是ナリ其申述ノ採用ス可ラサルハ衆人
 ノ知ル所ナリ
 今又其自白ナルモノハ幼者若クハ不能力者タルノ理由ニ因リ之ヲ消
 滅シ得可キヤ
 蓋シ此理由ノミニテハ自白ヲ取消スニ足ラサル者ノ如シ然レモ不能
 力者ノ輕卒又ハ通同ニ因リ某ノ事ヲ自陳シタリト證スルニハ都テ適
 當ノ方法ヲ以テスル時ハ其取消ヲ求ムルヲ得可キモノトス但シ其自
 白ノ誠實ヲ以テ爲シタル時ハ此例ニ非ルナリ
 (附言)此結末ニ云々スル所ノモノハ幼者ニシテ准犯罪ノ責アル者トシ
 テ訟ヘラレタル時即チ其損害ヲ生ス可キ事實ヲ行フタル者ナリト自

白シタル場合ニ通シ用コヘシ斯ノ如キ時ハ其自白ヲ以テ幼者ニ對ス
 ル一證トスル固ヨリ當レリト云可シ但シ本文ニ云々スル所ノ格別ノ
 理由アル時ハ此限ニ非サルナリ

第四款 事實及條目推問ノ事ヲ論ス

凡ソ被告人自主自主トハ裁判官ノ推問ヲ待スニテ自白セサル時ハ
 尙慣習ニ因リ事實及ヒ條目推問ト號クル所ノ裁判官ノ問糺ヲ以テ其
 自白ヲ誘起スルノ方アリトス我訴訟法中此推問ニ關スル規則ハ全ク
 其理ニ適セサルモノ、如シ

訴訟ノ本案ニ就キ相手方ヲ推問セシメント欲スル者ハ少クモ二十四
 時間前糺問ス可キ問題ヲ記シ豫メ其案ヲ送致セサル可カラスト

(附言)訴訟法第三百二十九條乃至三百三十三條勿論此條款中主任ノ裁
 判官ニ於テ其職務ヲ以テ問題ヲ設クルノ權ヲ與フト雖モ若シ其一

方ノ者出席セサル時ハ裁判官能ク其答辨者困難ノ所在ヲ卜知スル
ヲ得ル乎如何

此レハ是レ答辨ヲ心算シ防護ノ手段ヲ調理スルノ時ヲ與ニ全ク不意
ノ推問ニ當ルノ危檢ヲ除カントスルノ主意ナル乎蓋シ立法官ノ目的
トスル所ノ然ル可カラサルヤ疑ヒナシ然ラハ此規則ノ目的トスル所
ハ果シテ何レノ所ニ在リトスル乎

次キニ又此推問ヲ行フハ公廷ニ於テシ衆裁判官即チ其答辨ノ潔白ト
混雜ト言語ノ確否ニ因リ其被告ハ實ヲ告ルカ或ハ法廷ヲ欺カントス
ル乎ヲ監定ス可キ者ノ面前ニ於テ行フヲ以テ良ト云可シ而ルコ證人ノ
喚問ト同シク此推問モ亦主任ノ一法官ノ面前ニ於テ密行シ唯其詞狀
ヲ爲シルニ過サルナリ
到底之ヲ如何カセハ稍其理ニ近カ、ル可キヤトナラハ即其推問ヲ求

ムル者ヲシテ之ニ臨會セシムルニ在リ何トナレハ苟モ其本人ノ面前
ニ在ル時ハ相手方其箇條ヲ言消サントスルニ當リ一層ノ苦難アル可
ク又本人ハ自カラ裁判官ニ比スレハ事實ニ詳カナレハ其答辨ノ模様
ニ因リ實ヲ究ムルニ的實ノ問題ヲ増補スルヲ得可キナリ
然リ而シテ法律ハ尙其明文ヲ掲ケ之カ臨會ヲ禁止シタリ
是レニ由テ之レヲ視レハ我訴訟法中此推問ノコニ於テハ決シテ實ヲ
得可カラサルニ必然ノ方法ヲ設置シタルモノト云モ敢テ過言ト云可
ラサルナリ○蓋シ推問ノ裨益アツテ且其益ヲシテ大ナラシメシハ
豫メ之ヲ通知スルコ無ク勵聲以テ之ヲ訟廷ニ行ヒ而シテ其裁判官ハ
因テ得ル所ノ感覺ニ從ヒ直チニ其説ヲ定ム可キナリ

第十一章

誓ノコト論ス

夫レ誓トハ二事ニ就キ神ヲ以テ證人トナシ式ヲ以テ其言フ所ノ眞實ヲ

證スルヲ云フナリ
 凡ソ法律ハ訟廷ニ於テ嘘妄ヲ確言スルモ之ヲ罰セスト雖モ偽誓ノ如
 キハ之ヲ重罪ニ列シタリ抑々理學ニ基キ之ヲ論スル時ハ嘘言ニ於ケル
 寬典ト偽誓ニ於ケル嚴罰ノ理由ヲ解スルノ難キニ苦ムナリ
 夫レ神ハ吾人陳述スル所ノ證人ニシテ且其審司ナリ神明ヲ喚起スル
 ハ殊更其出現ヲ呼フニ非ス假令神明ノ之ヲ惡ミ視ルモ唯神名ヲ假テ
 嘘言ヲ陳スルノ罪ニ遇サル可シト人夫レ或ハ之ヲ信セシ乎今又他ヲ
 害スルノ企圖ヲ逞シ自家ノ密意ニ發スル嘘妄ノ確言モ天神ノ眼ヨリ
 之ヲ見ル時ハ齊シク又惡ム可キモノナリ蓋シ神明ヲ喚呼スル時ハ其
 嘘言ニ於テ一段ノ重キヲ加フルモ重罪ノ刑ヲ以テ罰スルニ至ル可カ
 ラス何トナレハ常ニ世人ノ云ヘル如ク天神ヲ汚辱スルノ報酬ヲ唱フ
 ルハ宜ク人類ノ爲ス可キ所ニ非レハナリ

然リト雖モ予カ信スル所ハ當ニ法律ニ詰責ス可キ所ノ者ハ偽誓ヲ罰
 スルノ酷ナルニ非スシテ却テ通常嘘言ノ寬過シルニ在ルナリ○人
 或ハ言ハソ凡ソ誠實ヲ守ルノ本義ハ純然タル道德上ノ本務ナレハ假
 令之ニ違犯スルモ立法官ノ罰ニ與ラズト
 凡ソ顯跡アツテ其價額ヲ定ム可キ損害ヲ生ス可カラサル嘘言ニ在テ
 ハ蓋シ然ラソ然リト雖モ今其嘘言ノ無害ナル者ト現ニ其害ヲ生ス可
 キ者ト區別セサルハ抑々何ノ故ソヤ今夫レ其負債無シト僞ル者ノ如キ
 ハ己レノ有ニ屬セサル物件ヲ掠奪セントスル者ト同ク之ヲ罰テ又何
 ノ不理アラソヤ
 是ニ由テ之ヲ觀シハ法律上總テ法廷ノ嘘言ヲ罰スルニ刑ヲ以テスル
 モ敢テ不理ト云フ可カラス而シテ法律ハ殊ニ人類ノ脆弱ヲ憐ミ之ヲ
 處スルニ寬ク以テシ罰スル所ハ唯格段ノ嘘言(偽誓)ニ過キス蓋シ誓ハ

法律ノ因テ以テ信ヲ取ル所ノ典ナリ而シテ其偽誓ヲ罰スル者ハ神明
 ナ汚辱スルニ因テ然ルニ非ス訟廷ニ於テ企圖ヲ逞シ加等ノ情狀ヲ冒
 シテ行フタル有害ノ所爲タルヲ以テ罰スル者ナリ然レハ則チ其奉ス
 ル所ノ宗教ノ如何ナルヲ問ハズ唯其國ノ法庭ニ於テ公然信義ヲ蔑如
 シタルノ不忠ヲ以テ之ヲ罰スルモ敢テ又不正ト云フ可カラズ
 民法ノ議案ニ於テハ誓ニ換フルコ唯法廷ニ確言スルヲ以テセントシ
 タリ蓋シ誓ノ一タル法教ニ關スル性質ハ有スル所アルヲ以テ忌ミタ
 ルナリ然リ而シテ遂ニ再ヒ之ヲ興スニ至ルハ誠ニ當レリト云フ可シ
 何トナレハ假令宗門ト民政ノ別ヲ判然タラシメントスルモ衆人ノ情
 態ニ依ラサル可カラズ果シテ之ニ依ルトセハ噓言ヲ吐チ怕レサシ者
 ニシテ其偽誓ヲ能セサル者少ナカラサルナリ因之裁判所ハ之ヲ用ヒ
 テ往々其實ヲ得ルニ至ル可キ方法ヲ奪却セラル可カラサルナリ今又

此方法ヲ存シテ其効ヲ全カラシメシニハ誓ニ屬スル宗門ノ性質モ亦
 至リ之ヲ保存セサル可カラズ

故ニ其神名ヲシテ陰微ノ間ニ付スルノ式ニ代フルコ今其詞訟ニ勝タ
 ントシ將ニ行ハントスル所ノ誓ノ神聖ナルヲ知ラシムルニ足ル可
 キ顯著ノ具式ヲ以テスルヲ要ス可キナリ予カ欲スル所ハ一日法官宣
 誓ノ式ヲ制シ神誓ト人怒ニ因リ偽誓ヲ訟ヘンヲ知ラシメ市府ノ群
 衆ニ公報スルヲアラソト是ナリ

蓋シ誓ハ固定ノ誓ト略定ノ誓ヲ分ツテ得可キナリ

第一款 固定ノ誓ノ一ヲ論ス

凡ソ固定ノ誓トハ義務ノ執行ヲ保スルカ爲メ行フ所ノモノニシテ略
 定ノ誓ト同シカラス蓋シ略定ノ誓ハ將來ノ事實ニ係リ固定ノ誓ハ既
 往ノ事實ニ關スル者ナリ

抑宗教全盛ノ時代タル中世ニ在テハ此固定ノ誓ヲ以テ奇怪ノ濫用ヲ
 ナシ之ヲ以テ法律ニ定メタル不能力者又ハ無効ノ制規ヲ破ラシメタ
アンカバシテ
 リ蓋シ一婦又ハ幼者ニシテ誓ヲ爲サ、ル時ハ無効ノ義務ト雖モ苟シ
ニユリテ
 其義務ヲ履行ス可キノ誓ヲ爲シタル時ハ再ヒ婦女ノ故ヲ以テ之ヲ取
 消ス一能ハサラシメタル是ナリ蓋シ契約ヲ爲ス者ノ雙方ニ於テ誓ヲ
 用ル時ハ立法者定ムル所ノ制規ヲ破ルヲ許スカ如キニ至テハ容易ニ
 理解シ難キ所ナリ抑契約ノ目的ニ欠失ヲ生ス可キ不能力者ニシテ其
 契約ニ屬スル事件ニ過サル誓ニ欠失ヲ生セサルノ理アラソヤ到底其
 誓ニ恭順スルト否トヲ監定スルハ其宣誓シタル者ノ良心ニ任カス可
 キ者ノ如シ

凡ソ法律上自カラ無効ト定メ又誓ヲ宣ルルハ其契約ノ効ヲ生ス可シ
 ト云カ如キハ法律ニシテ宗門ノ範圍ニ浸入スル者タル明カナリトス
 蓋シ近世ニ至リ思想開明ノ國ニ在テハ既ニ此種ノ誓ヲ廢絶スルニ至
 ル而シテ今尙ホ之ヲ存守スルハ中世ノ古習ヲ墨守スルニ三ノ邦國ニ
 過サルナリ

第二款

略定ノ誓ノ一ヲ論ス
セルマンフロバチ

略定ノ誓ナル者ハ法誓、決誓、補誓ノ三種ニ分ツヲ得可シ
レカールデシヨールニフレン
 「法誓」凡ソ法誓ト號クル者ハ法律上命令ノ條款ニ遵ヒ裁判官ヨリ行ハ
 シムル所ノ誓ヲ云フナリ即チ證人陳證ノ前ニ當リ行フ所ノ誓ノ如キ
 是ナリ

「決誓」ハ詞訟ヲ決セシメシメカ爲メ原被ノ一方ヨリ他ノ一方ノ者ヲシ
 テ行ハシムル所ノ誓ヲ云フナリ故ニ此誓ヲ望マレタル一方ノ者若シ
 其宣誓ヲ肯セサルカ若クハ再ヒ其相手方自カラ之ヲ行ハシムルヲ望マ
 サル時ハ其詞訟ヲ失フ可キナリ

凡ソ一方ノ者争訟ヲ中斷セシカ爲メ榮譽ニ關スル事ニ就テ其決ヲ取
ラントスルノ不當ヲ懲フル能ハズ故ニ其訟案ハ何ナル景況始終問ハサ
ルチニ在ル時ト雖モ又全ク無證ノ時ト雖モ時ヲ撰マス宣誓セシムル
コトヲ得可シ

凡ソ此種ノ信據力ハ之ヲ行フ者ヨリハ他ニ宣誓ヲ求メ若シ之ヲ行フ
時ハ甘シテ自カラ敗テ取ラント諾スル者ノ所爲ニ依ル者トス因テ一
トダヒ其誓ヲ遂ル時ハ又其眞偽ヲ驗スルヲ要セス己ニ其要件ノ實行
アル以上ハ被告ハ免還セラル可キナリ
〔補誓〕トハ裁判官ノ自カラ其心證ヲ決定セシカ爲メ原被ノ一方ニ於テ
命スル所ノ誓ヲ云フモノニシテ已ニ他ノ徵驗ニ因リ端緒アルノ證ヲ
補ヒ之ヲ完全ナラシムル者トス
蓋シ裁判官タル者原被一方ノ宣誓ニ因リ他ヲ處斷スルヲ以テ一般ノ

規則トスルハ不理ト云フ可キナリ此故ヲ以テ法律上此誓ヲ許スハ唯
リ其案件ノ性質ニヨリ若シ此補ヒ無キハ裁判官之ヲ罰スルノ言渡
ヲ爲ス事有可キ場合ノミニ限ル可キナリ例ヘハ唯通常ノ推測ニノミ
根據シテ處決ス可キ時又ハ唯解明ニ用ヒタル事件ニ就キ其眞偽ヲ明
カニスルニ過サルノ場合ノ場合ノ如キ是レナリトス

第十二章 推測ノ事ヲ論ス

夫レ推測トハ既知ノ事實ニ就テ未知ノ事實ヲ推知スル所ノ果効ヲ云
フナリ

凡ソ事物ノ變現ハ其理由ノ相類似スルニ因リ彼此果實ヲ同フスル者
ナリ而シテ其事由ノ如何ハ人ノ經驗ニ因リテ知得スル所トス故ニ人
若シ不斷同一ノ理由ニシテ同一ノ果効ヲ生スルヲ見ル時ハ法理ニ於
テ假令ヒ其事ニ就キ直接ノ證ナシト雖モ其情狀ノ類ヲ推シ此果効ノ

現狀ヲ見テ其原由ノ現在スルコトヲ信スルナリ
 彼ノサザトクナル者ハ砂土ニ印スル痕跡ヲ檢シバピロヌ
 王ノ寵愛スル所ノ獸ハ「エスバニヨール」エスバニヤニ生種ノ犬ニシテ
 數兒ヲ産テ久シカラス其耳長大ニシテ且其左足ノ跛ナルコトヲ推知
 シタリ是レ即チ巧妙ナル推測ノ例ナリ然レモ又之ヲ以テ當ニ則トル
 可キノ規範トシテ法官ニ示スカ爲メコトハ又果斷ニ過タル者アルカ如
 シ
 抑ク此類ノ證據ニ在テハ或ハ錯誤中ニ陷ラシム可キ事實頗ル多シ若シ
 一箇ノ事情ヲ悉サ、ルコトアル時ハ往々其推測ヲシテ虛妄タラシムル
 ニ足ル可シ今序ヲ逐テ憶測ヲ漸次推及スル時ハ一箇既知ノ事實ヨリ
 シテ或ハ百端ノ事緒ヲ涉ラシム可シ故ニ推測初發ノ點ヲ去ルコト愈遠
 ゲレハ其推測ハ益々不定ニ屬ス可キナリ

亞細亞
 國ノ都府女

故ニ一箇ノ推測ハ未タ完全ニ及ハサル遠シト雖モ若シ其目的ヲ同フ
 スル者ニシテ多ク聚集スル時ハ彼此相應シテ遂ニセルナ、ユードノ價
 直チ生ス可キ點ニ至リタルヲ確認スルニ至ル可シ蓋シ許多徵驗ノ一
 點ニ集合スルハ太々稀有ノコトナルカ故ニ若シ斯ノ如キコトアル時ハ之
 チ以テ其實ヲ見ルニ足ル可キナリ
 今盜犯アリ其犯所ニ於テ新鮮ノ痕跡ヲ存ス而テ今其隣人ノ靴ヲ以テ
 之ニ加フルニ全ク其痕ト符合ス斯ノ如キ場合ニ在テハ其犯ノ嫌疑ハ
 直チニ其人ニ及フ可キナリ○然リト雖モ他又全ク同形ノ靴ナシト云フ
 可カラス又他人ニシテ其盜ヲ犯サン爲メ隣人ノ靴ヲ奪フタルヤモ亦
 知ル可カラス或ハ又本人自カラ此所ヲ過キタルニモセヨ盜ノ爲メニ
 非スシテ他ノ事故アリテ過キシヤモ亦知ル可カラス故ニ之ノミヲ以
 テハ未タ其推測ハ完全ト云フ可カラス○然レモ其人タル己ニ盜罪ノ

處決ヲ受クル者タル時ハ即チ第二ノ推測ニシテ第一ノ推測ニ附加スル者トス又其犯ノ時ニ當リテハ他所ニ在リテ犯所ニ在ラサルコトヲ證セントシテ其虚言ノ發露スルコトアル時ハ其嫌疑ハ漸次ニ重ナリ遂ニ又其由來ヲ詳明シ能ハサル金額ヲ查出スルニ至ル而テ以上幾多ノ推測ノ一ノミニテハ決テ取ルノ證トスルニ足ラスト雖モ其全數ニ因ル時ハ最モ慎重ノ裁判官ト雖モ遂ニ其人ノ盜犯ナルコトヲ宣告スルニ至ル可キナリ今文書ノ擬作ニ於テモ亦然リ例ヘハ未嘗有ナル新奇ノ語句ト雖モ二人ノ著書中偶々暗合スルコトアル可シ故ニ二筆ニ出テ同一ノ語ナシト云フ可カラス然レモ若シ其數ノ七箇若クハ十數以上ニ及フ時ハ衆人咸ナ云ハントス暗合シテ其數ノ多キ斯ノ如キハ千中ノ一ト云フ可シ是レ必ス擬作ナラント抑々推測ニシテ全ク裁判官ノ敏智ニ委ヌル者アリ之ヲ人ノ推測ト云フ

フレンツシヨンドロム

他又履行ハル。者ニシテ且最モ確真ヲ表スル者ハ之ヲ法ノ推測ト稱シ法律ニ因リ制定スル所ノ者ナリ

第一款 人ノ推測ノ事ヲ論ス

凡ソ人ノ推測ニ在テハ其性質ニ於ケルモ亦其裁判官ノ當ニ心證ヲ定ム可キ正點ニ就テモ絶テ規制ヲ立ルコトヲ得ス全ク其實際如何ニ基ク者ニシテ舉テ裁判官慎重ノ鑑定ニ委ヌル者トス

而テ特ニ茲ニ指定シ得可キ者ハ唯此種ノ推測ヲ用フルヲ許可シタル者ト看做ス可キ場合即チ是レナリ今若シ此人ノ推測ナル者ハ獨リ證人ノ供述ニ因ルニ非サレハ生セサル者トセハ人證ヲ採用ス可カラサル案件ニ於テハ此推測ノ採ル可カラサル必然ト云フ可シ

若シ又此推測ナル者ハ裁判官自カラ信據スル所ノ實際ノ事實ヨリ生スル者トスル時ハ已ニ證人收賄偽證ヲ爲スノ危險更ニナシ之ニ因テ如

何ナル詞訟ニ關スルモ此推測ヲ採用ス可キヤ否ヤノ疑團ハ愈々大ナリトス然リト雖也全ク此推測ヲ許ス時ハ假令ヒ賄賂ノ害ナキモ因テ生スル所ノ橫斷ノ害ヲ免レサル可シ

若シ夫レ裁判官タル者ハ常ニ鄭寧謹慎聰明ニシテ偏頗ノ心ナキ者タル時ハ全ク之ニ委ヌルモ敢テ弊害アル可カラズ然リト雖モ又苟クモ以上ノ美德ニ缺クル者アル時ハ百事單一ノ推測ニ因テ判決ス可シ斯ノ如キハ誠ニ其私情若クハ妄斷ヲ以テ實情ヲ探ルノ要具トナサシムル者ト云フ可キナリ

是ニ由テ之ヲ觀レハ凡ソ人ノ推測ヲ許ス可キハ人證ヲ許スノ場合即チ准^{カチ}犯^{カチ}罪^{カチ}准^{カチ}契^{カチ}約^{カチ}些^{カチ}少^{カチ}ノ契約又ハ己ニ文證ノ端緒アリテ一方ノ者ノ陳證ヲ以テスルモ其事實ヲ確然ナラシムル時ニ限ルヲ以テ良トス可キナリ

第二款

法ノ推測ノ事ヲ論ス

抑^レ法ノ推測トハ法律上自カラ世間ノ多例ニ則トリ公益ノ漠然ニ付スルヲ許サ、ル所ノ事實ヲ制定スル所ノ者ヲ云フナリ

此推測ノ如キハ制法中其數頗ル多シ今其二三ヲ論述セントス

凡ソ婚姻セシ婦ノ産タル子ハ其夫ノ子ナリト看做ス所ノ推測ノ如キハ社會ノ福祉ト親族平和ノ爲メニハ最モ缺ク可カラサル所ノ法ノ推測トス

又丁年ノ齡即チ人トシテ此年齡ニ達スル時ハ自カラ其所業ヲ主宰シ且其財産ヲ管理スルニ相應ノ智能ト經驗アリト看做スカ如キモ法ノ推測ナリト云フヲ得可シ

又互ニ遺物相續ス可キ者二人共ニ同一ノ變ニ死亡シ其死ノ前後ヲ知ル可キ徵驗ナキ時ハ凡ソ何レノ立法者ニ在テモ其年齡ト男女ノ別ニ

從ヒ後ニ死シタリト推測シ從テ先ニ死シタル者ノ遺物相續シタル者ト看做ス可キ者ヲ制定スルナリ
 又贈遺ノ事ニ關シテハ不能力者ニ於テ贈遺ヲ爲シ得可カラサル者往々其不能力者ノ父又ハ子又ハ其配偶者ヲ指名シ不能者ニ於テ間接ニ之ヲ贈ラントスルコトアルノ經驗ヲ以テ此ノ如キ贈遺ハ概シテ其人名ヲ假用シタル者ナリトスル法ノ推測ヲ立タリ
 負債者ニ於テ貸金ノ證書ヲ渡スモ亦之ト齊シク其負債ヲ免レタル者ト推測スルナリ蓋シ債主タル者ハ若シ其證書ノ不用ニ屬シタルニ非レハ何ソ之ヲ渡スコト肯ハソヤト云フニアルナリ
 以上何ソノ場合ニ於テモ法律自カラ裁判官ノ心證ヲ設ケタルト云フ可キカ或ハ裁判官之ヲ言渡サ、ル可カラサル所ノ法ノ心證ヲ以テ裁判官ノ心證ニ換ヘ之ヲ明言セシメサル者ト云フニ近カル可シ蓋シ此

等ノ場合ニ在テハ裁判官自家ノ心證アリテ決スルニ非スシテ當ニ然ル可シト立法官ノ制定スル所アルニ因テ然ル者ナリ
 唯茲ニ一大困難ノ問題アリ曰ク此推測ノ虛妄ヲ指示ス可キ證ヲ以テスル時ハ法ノ推測ト其力ヲ爭フヲ得可キ乎或ハ又此推測ナル者ハ爭フ可カラサル者ナル乎
 抑、當時法制ノ現狀ニ於テハ謹慎ヲ重スルカ若クハ横恣ヲ用フルニ非ンハ此疑難ヲ決スルコト能ハス蓋シ今予カ信スル所ニ據リ法律ヲシテ當ニ理ニ當ラシム可キニハ如何シテ可ナランカ左ニ論ゼントス
 先ツ其大ニ異ナル所ノ二箇ノ場合ヲ分別セサル可カラス乃チ法律ハ唯單ニ推測ヲ設クルノ外他ノ目途アルニ非ル場合ト又法律上或ハ其實一箇ノ推測ニ過ク可カラスト雖モ又其推測ノ目的ヲ成立スルニ非スシテ唯其原由タルニ過キカル所ノ二三ノ理由アルニ因リ一箇ノ權

利ヲ與奪スルノ場合是ナリ
 今彼ノ負債者ニシテ其負債ノ證書ヲ有スル者ハ其責ヲ免レタル者ト
 看做スト云フカ如キハ即チ真正ノ推測ト云フ可シ之ヲ反シ凡ソ人二
 十歳ノ齡ニ至ル迄ハ契約ヲ爲シ能ハサル者トスト云フカ如キハ唯單
 一ノ推測ヲ立クルニ過キヌシテ其推測ニ因リ權利ヲ奪フタル者ナリ
 而シテ其權利ヲ奪ハレタル者ヲ不能力者タル可キハ無論ナリ然レモ
 此推測タル立法官之ヲ設クルノ原由ニ過キヌシテ其目的即チ專ラ欲
 スル所ハ凡テ幼者自カラ義務ヲ負擔スルノ權力ヲ奪フニ在ルノミ
 第一ノ場合ニ在テハ法律ノ力ハ唯通常推測ノ外ニ及ハサレハ事實反
 對ノ確證アルニ於テハ之ニ讓ラサル可カラズ
 第二ノ場合ニ在テハ法律ハ其推測ヲ固守スルヲ得可シ蓋シ專ラ公益
 チ主トスル者ナルカ故ニ此制規ハ則チ普通ニ涉リ且如何ナル場合即

チ彼ノ推測ノ虛妄ヲ指證スル時ト雖モ常ニ同一ノ力ヲ保存スル者ト
 ス
 凡ソ何レノ例ヲ設クルモ以上二箇ノ場合ニ籠ラサルハナシ之レニ因テ
 第一ノ場合ニ該ル時ハ推測セラル可シト云ヒ第二ノ場合ニ該ル時ハ
 得可シ又ハ得スト云フ可ナリ蓋シ一目シテ此語勢ノ大ニ異ナル者ア
 ルヲ見ル可シ推測ハ即チ其性質ニ因リ常ニ反證ヲ受ケサル可カラズ
 又權利ヲ附與シ又奪却スルニ係ル者ハ反證ヲ受ク可カラズ今茲ニ予
 カ真正ノ推測ニ在テハ常ニ反證ヲ受ケサル可カラスト云フ者ハ法律
 ノ此推測ヲ設クルハ大概眞實ナル規則トシテ然ルニ過キサルカ故ナ
 リ
 果シテ然レハ凡ソ情狀ノ異變アルヲ以テ動かス可カラサル總則ヲ建設
 スルコトハ理ニ於テ許サ、ル所ナレハ其反證ヲ許スハ實ニ訴訟ノ本人

推測ヲ以テ推サル、ニ當リ時アリテ其虚妄ヲ指證スルヲ許スノミノ
謂ニ非スシテ即チ立法官ノ主意ニ探入スル者ト云フ可シ
今己ニ此説ヲ可トスレハ其法ノ推測ヲ撲滅スルカ爲メニハ如何ナル
種類ノ證據ヲ以テ之ヲ爲シ得可キ乎獨リ文證ヲ以テノミ爲シ得ルニ
非スシテ又人證ヲ以テ爲スヲ得可キ呼將々法ノ推測ニ反對ナル單一
ノ推測ヲ以テ爲ス可キ乎

予カ見テ以テスレハ其本案ノ性質ニ因テ自カラ異同アル可キナリ蓋
シ法ノ推測ナル者ハ唯其推測ノ益ヲ得可キ者ノ爲ス可キ指證ノ責ヲ
以テ其相手方ノ移任スルニ外ナラサルナリ之ニ因テ若シ其本案ノ證
人若シハ單一ノ推測ニ因テ裁決セラル可キ者ナル時ハ其裁判官ハ法
ノ推測ヲ撲滅スルニ證人又ハ通常ノ推測ヲ用フルヲ許可ス可シ又
之ニ反スル場合ニ在テハ裁判官ハ文證アルカ又ハ本人ノ自白アルニ

非レハ之ヲ許スヲ能ハサルナリ

明治十四年九月十七日 齣刻御届
同 年十月 刻 成

出版人

大坂府平民

岡 島

眞七

東區本町四丁目五十九番地

印刷

同支店

岡 島

活版所

東區本町四丁目六十番地

發兌

人

諸新聞雜誌
賣捌所

岡

島

支

店

東區本町四丁目三番地

大橋濟注釋

佛國治罪法對比注釋

全壹冊 定價金一圓廿五錢

夫ノ治罪法ハ刑法ト相牽聯シテ以テ其運用ヲ爲スモノナリト然ルニ世ニ刑法註釋等ノ書續々出ツルカス故ニ今回大橋氏ニ請フテ全完タル治罪法ノ註釋成ルアリ因テ印刷ニ付シ今ヤ刻成ルヲ告ク請フ四方ノ諸君子陸續購求シテ以テ知リ賜ハランコトナ

小山景止編纂

佛國刑法對比合卷

全一冊 定價金八十五錢

太政官公版翻刻

刑治罪法合卷

全一冊 定價十五錢

大坂裁判所鑿版

一諸罰則概表

全一冊 定價金四十錢

橫田忠三郎編輯

一土地地券例規全書

全壹冊 定價金壹圓

判事從七位吉田千足君題字
在坂 福岡廣業 著述
刑名 刑法解釋 全一冊

右ハ先ニ頒布セラレタル刑法ヲ三段ニ區分シ下段ニハ刑法原文ヲ擧ケ各條ニ註解ヲ加ヘ且例規ヲ以テ解シ易カラシメ擬律ノ便ヲ量リ刑期ノ加減ヲ詳ニシ中ニハ刑法原文及ヒ註解ノ讀ミ難ク且解シ難キ文字ヲ抜摘シ片假名ヲ以テ右傍及ヒ其下ニ註シ上段ニハ刑名罪名ヲ集メ次ニ維新以降明治十四年一月マテノ諸罰則ヲ擧ケ以テ覽閱ニ便ナラシメ且每條參觀ニ供スル爲メ佛、獨、埃、普、魯、英、澳、等ノ各國約條ヲ抜摘セリ故ニ法ヲ講スルノ諸彦ハ必大坐右ニ次クベカラサル良本ナリ

逸見儀正編輯

一民事彙纂

全一冊 定價金二圓

福岡廣業編輯

一代言人規則注解

全一冊 定價金八錢

山内幹朗編輯

一治罪要錄

全一冊 定價金一圓三十錢

判事補淺井佐一郎編輯

政正 民事覽要

甲篇全一冊 定價二圓五十錢

本篇ハ維新革命ヨリ明治十二年ニ至リ發令セラル民事詞訟ニ振要ナク官令ヲ撮録合輯セシモノナリ其類ヲ分ツテ四十一章ト爲シ逐條要旨ヲ摘採シ卷首ニ掲ケテ數ナ附スルヲ以テ尤繼ニ便ナリ而テ既ニ改正成ル條件ハ原文ヲ略シ要領及ヒ發令年月日號ヲ記シ以テ其沿革ヲ知ラシム然レハ證券印稅受人證人辨償規則ノ如キ當時ノ定約存スルモノ之ヲ載録セリ或ハ卷中照合ス可キモノハ其條件ヲ記スルニヨス一日シテ且亦沿革ヲ知ル可シ尙モ訴訟ニ關リルノ法令載セテ漏カス實ニ民事緊要ノ書ト爲ス諸君幸ニ購求アラントナク

一同二版 十三年分 全壹冊 定價五十錢

一同三版 年々逐次刊行

一同乙篇 增補同指 近刻

大坂上等裁判所藏版

一官令摘要

全一冊 定價金二圓

津田真一郎譯

一泰西國法論

全一冊 定價金廿五錢

小林義秀譯

一政體論

全一冊 定價金廿五錢

堀越愛國譯

一經濟論

全一冊 定價金三十錢

高橋建治譯

一交際論

全一冊 定價金廿五錢

若山正編輯

一警察纂要

全一冊 定價金一圓

阪卷源太郎編輯

一刑法一覽表

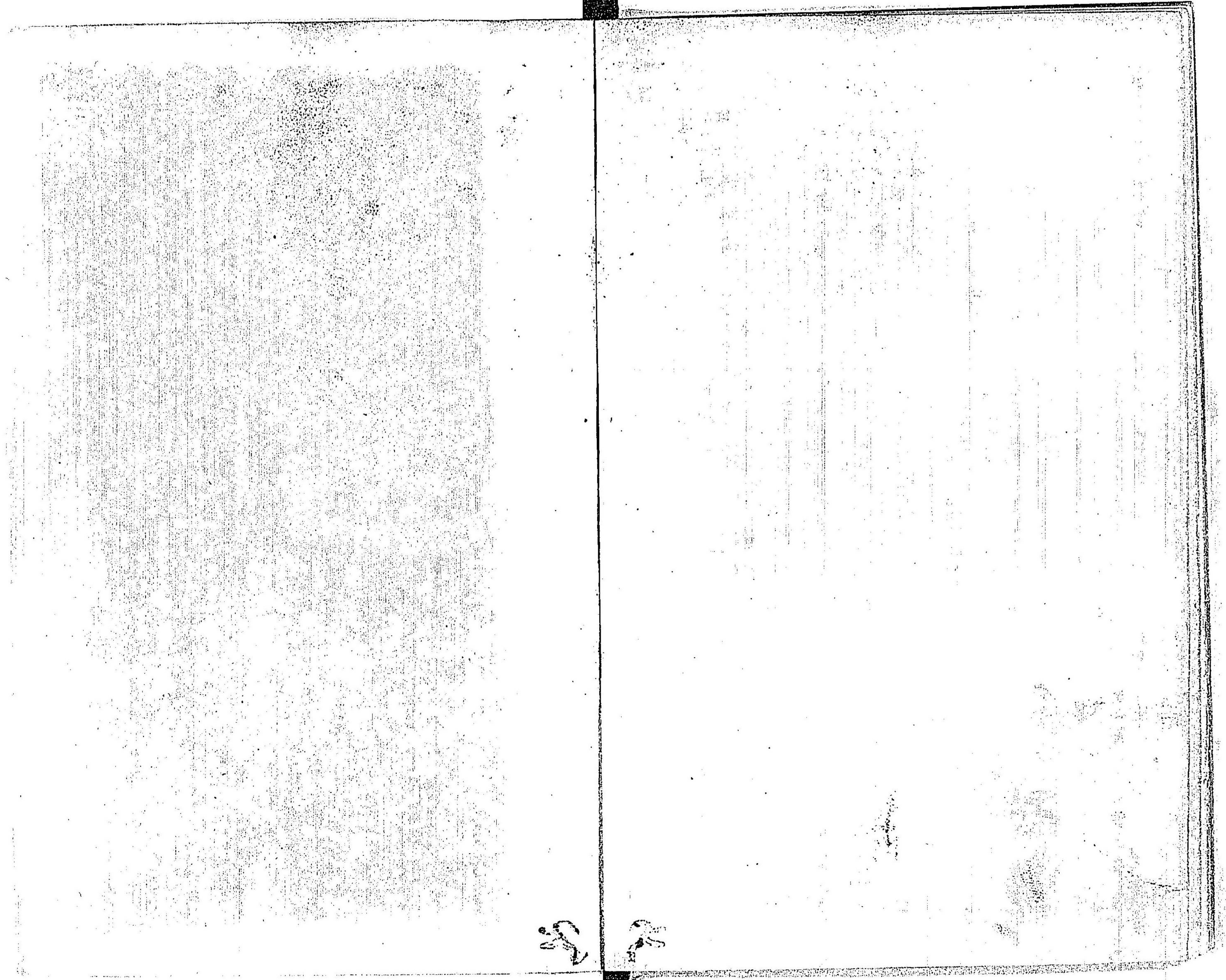
折本全一冊 定價金十二錢

市石照編輯

一輕罪刑律加減表

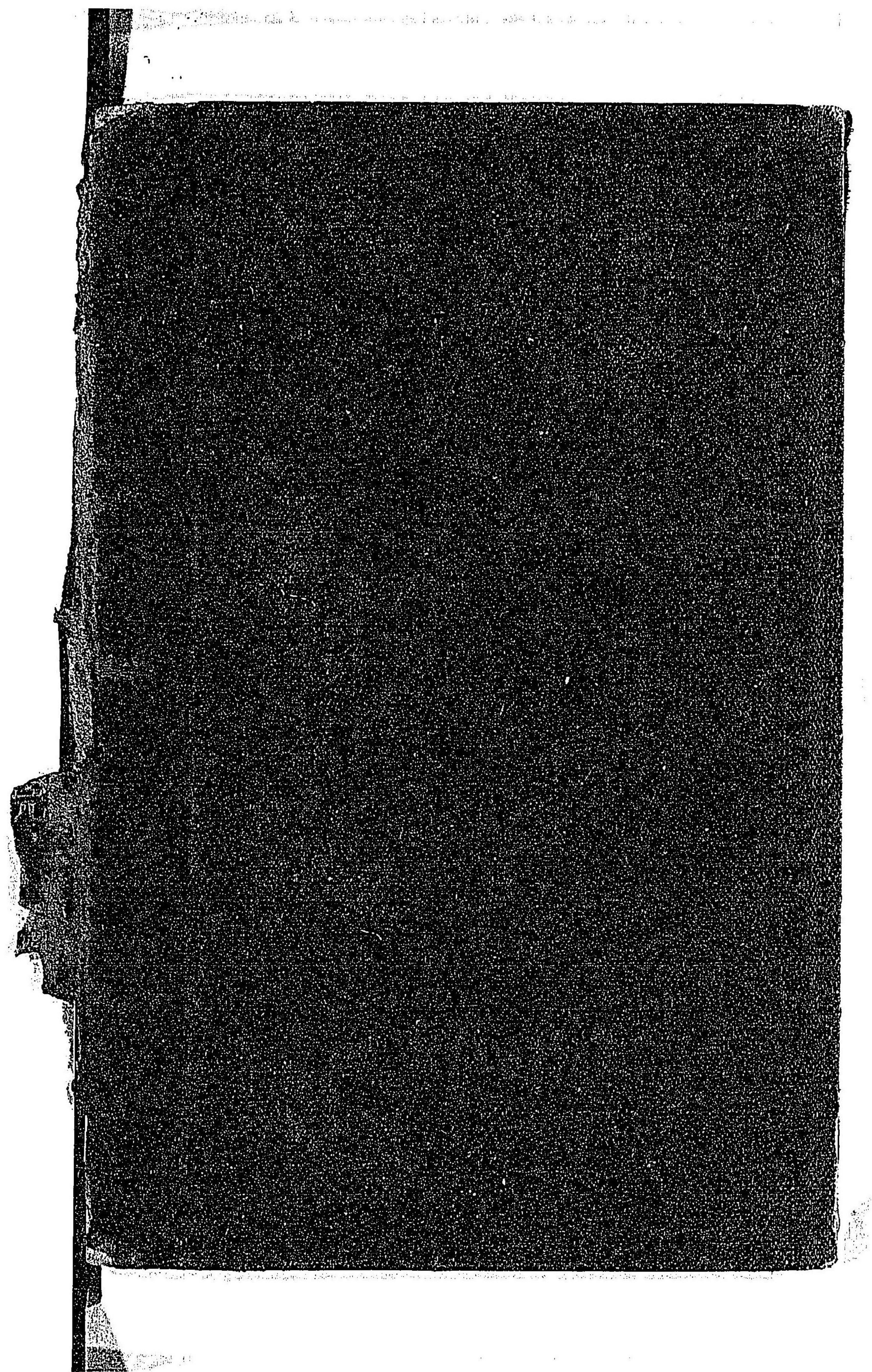
折本全一冊 定價十二錢

何シモ各地書林へ差出置候間其御最寄ニテ御購求之程奉願候



33
27





33
27

東 京 園 書 館				
一	二	三	四	五
冊	号	架	函	属 類

036787-000-3

33-27

証 拠 論 拔 萃 第 1, 2 卷

グリーンリーフ・ベルム / 撰

M14

BBS-0222

